

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	Webを活用した企業マッチング型学生ケアシステム（指導マニュアル・カリキュラム）の研究開発		
学校法人名	社団法人沖縄県専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 名城 政次郎	担当者・連絡先	事務局長 新井 由夫 098-832-5166

< 事業の概要 >

平成15年度文部科学省委託事業において研究開発したCBTプログラム(企業ニーズの高い能力であるモチベーション<モチベーション、自己モチベーター、うつ度、EQ>、コミュニケーション能力、ビジネス能力をWeb上で検査し、そのデータを時系列でデータベース化し、各学校へフィードバックするプログラム)を発展させる形で企業マッチング型学生ケアシステムの研究開発を行った。
本事業の内容としては、下記の3つに分類される。

1. CBTプログラムを利用した学生ケアシステムの実証研究

平成15年度開発されたCBTプログラムを通年で活用し、プログラムの検証及びデータの蓄積を行い、入学から卒業までの一貫した時系列でのカリキュラムの構築を行った。また、CBTプログラムの修正・改善による精度の向上を行い、CBTプログラムを活用した「学生指導マニュアル」の製作を行った。

2. 学生と企業との双方向マッチングシステム（CBT2）構築のための研究開発

CBTプログラムにおいて蓄積された学生データの一部を企業に開示して「企業が学生を選ぶ仕組み」の開発は平成15年度構築したが、それをより発展させ、学生と企業がお互いの情報を受発信することにより「学生も企業を選ぶ仕組み」を構築し、CBTプログラムと組み合わせ、それを利用する学生の職業観形成・就職支援のための企業マッチング型学生ケアシステム（CBT2）の研究開発を行った。

3. キャリア理論に基づいたキャリア・サポートセミナーの実施

専門学校教職員の進路指導・就職指導技術を向上させ、キャリア理論を形成するための養成セミナーの実施、及び多様化する業種・職種、企業形態・雇用形態を研究するためのセミナーを開催し、学生へのキャリア・マインドの養成手法の修得と企業理解を図り、開発されたシステムをより効果的・実践的なものへと発展させるべく10月から2月にかけて全11回のセミナーを実施した。

< 成 果 >

1 . CBTプログラムを利用した学生ケアシステムの実証研究

昨年度開発したCBTプログラムの実施検証を繰り返し、より完成度を高め、実施利用するために現実的なシステムにするための変更および修正点の洗い出しを行った。各専門学校で昨年度版CBTプログラムを継続的に実施し、学生ケアのフィードバックを繰り返し、データの蓄積をした。その中で、学生のモチベーションの推移とキャリア形成に注目し、入学から卒業までを時系列的に表したモデルカリキュラム表を構築した。個々の専門学校のカリキュラムや学科によって多少の違いはあるが、モデルカリキュラム表に合わせた時期にCBTプログラムを実施し、モチベーション、コミュニケーション能力、ビジネス能力、エントリーシートについての診断結果の見方とその対処方法およびトレーニング方法を個々に作成し、検証し、修正し、全体を取りまとめて完成させた。

モデルカリキュラム表

入学から卒業までの2年間で「入学時」「1年前期」「1年後期」「2年前期」「2年後期」の5タームに分け、それぞれのタームでのキーワード、目標、モチベーション、キャリア形成、確認事項、CBTプログラム実施時期などをまとめたモデルカリキュラムを構築した。

「学生指導マニュアル～CBTプログラムを利用した学生指導」のアウトライン

第1章 CBTプログラム

- 1 - 1 . CBTプログラムのねらいと学生指導
- 1 - 2 . CBTプログラムの概要
- 1 - 3 . CBTプログラムの時系列表
- 1 - 4 . CBTプログラムの実施の流れ
- 1 - 5 . CBTプログラムの操作マニュアル
- 1 - 6 . コーチング

第2章 エントリーシート “ My Profile ”

- 2 - 1 . エントリーシートのねらいと学生指導
- 2 - 2 . エントリーシートの概要
- 2 - 3 . エントリーシートの指導

第3章 モチベーション指導マニュアル

- 3 - 1 . ねらいと学生指導
- 3 - 2 . 概要
- 3 - 3 . モチベーションチェックの画面操作
- 3 - 4 . モチベーションチェック問題
- 3 - 5 . 実施時期
- 3 - 6 . 結果表示
- 3 - 7 . 測定結果の見方と対処法

モチベーション
うつ度
自己モチベーター
EQ

第4章 コミュニケーション能力指導マニュアル

- 4 - 1 . ねらいと学生指導
- 4 - 2 . 概要
- 4 - 3 . 画面操作
- 4 - 4 . コミュニケーション能力チェック問題
- 4 - 5 . 実施時期
- 4 - 6 . フィードバック環境
- 4 - 7 . 測定結果の見方とトレーニング例
- 4 - 8 . フォローアップ
コミュニケーションを鍛えるグループワーク

第5章 ビジネス能力指導マニュアル

- 5 - 1 . ねらいと学生指導
- 5 - 2 . 概要
- 5 - 3 . 画面操作
- 5 - 4 . ビジネス能力チェック問題
- 5 - 5 . 実施時期
- 5 - 6 . フィードバック環境
- 5 - 7 . 測定結果の見方とトレーニング例

2 . 学生と企業との双方向マッチングシステム (CBT2) 構築のための研究開発

CBT2の研究開発にあたり、既存のWebにおける就職サイト(マッチングシステム)の研究を行った。

就職サイト全般の考察

学生向けの無料サービス・コンテンツが充実している。登録学生数を増やすことが目的。

違いはあるが、システム利用料金等のコストを企業側に課している。

どの就職サイトも検索機能は充実している。

沖縄の企業の利用が少ない。利用しているのはほとんどが沖縄を代表する企業(銀行等)である。

学生の登録情報の信憑性は?(チェックするシステムがない)

学生(求職者)と企業(求人)とのマッチングであり、学校は一切関与していない。

求人ニーズと求人情報について

求人には時間とコストがかかる。

「新卒者一人採用するにあたっての費用は、308、513円」

中小企業では、なかなか求人広告をだせない。

どこの企業も人手不足であるが、求人広告は出していない。

良い人材がいれば、いつでも採用したい。

求人ニーズの掘り起しが必要。

最終的には企業トップまたは人事担当者と学生との相性できる。

沖縄の企業のデータベースはない。また、企業情報も少ない。

CBT2の基本コンセプトを下記のようにした。

学生と企業の双方にメリットのあるマッチングシステム

手間（時間）と費用（コスト）を削減でき、お互いの情報を収集・発信できるシステム

学生や企業担当者へ直接コンタクトが取れるシステム

専門学校のスタンス...完全管理ではなく、在籍学生の履歴のモニタリングを行う

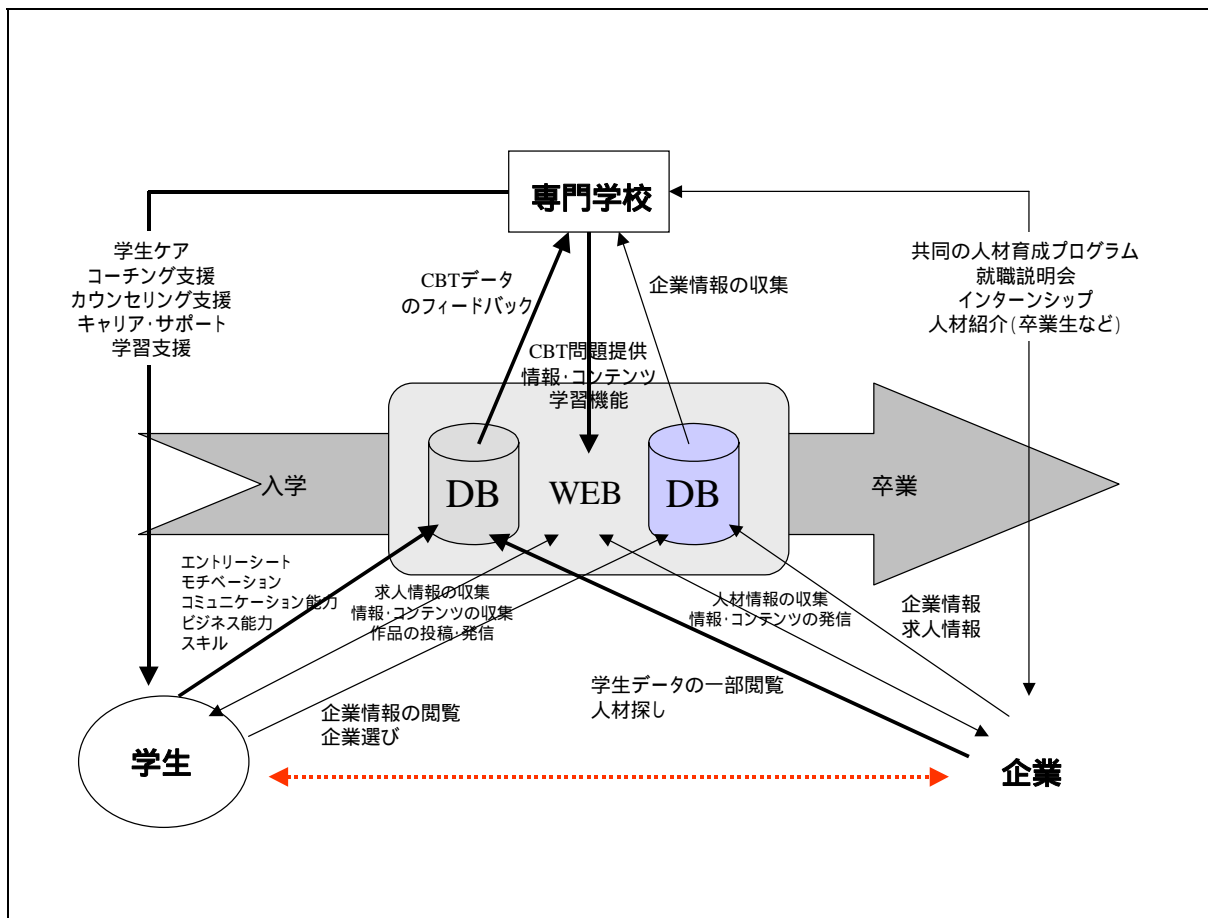
学生情報の信頼性

学校がモニタリングを行っているという安心感（企業側）、チェック結果の参照ができる。

ミスマッチの確率が小さくなる。

沖縄県内の中小企業データベースの構築

CBT2の全体像



同じ Web サイトで、モチベーションやコミュニケーション能力、ビジネス能力などの診断ができ、それらのデータを基にした学生指導や企業への自己情報の発信及び沖縄企業データベースでの企業情報の収集ができる沖縄県初の就職サイト(マッチングシステム)が完成した。

3. キャリア理論に基づいたキャリア・サポートセミナーの実施

「キャリア・サポート養成セミナー」は、10月29日から2月10日の約4ヶ月間に、11回開催した。また、今回のセミナーは、クラス担任や教務の先生方へ参加を呼びかけ、学生と一番近い距離にいる先生へのキャリア・サポート・マインドの養成と進

路指導・就職指導技術の向上と企業研究を目的とした研修プログラムでした。

セミナー回数	全 11 回	(6 時間 3 回、3 時間 8 回)
参加者総数	303 名	(1 セミナー当たり 平均 27.5 名)
参加専門学校数	19 校	
参加高等学校数	8 校	
その他団体数	6 団体	(冲専各協会、大学、雇用・能力開発機構、小学校等)

「キャリア・サポーター養成セミナー」(6 時間 × 3 回)

講師：小林智明 株式会社JMAMチェンジコンサルティング
キャリア・カウンセリング研究所所長

「成功へと導く就職実践力の育成」(3 時間)

講師：横山征次 教育プロデューサー

「県内就職と県内企業」(3 時間)

講師：田中宏和 株式会社人材派遣センターオキナワ 営業部長

「キャリア・デビュー」(3 時間)

講師：高山直 株式会社イー・キュー・ジャパン 代表取締役会長

「企業と人材」(3 時間)

講師：今井真章 住友商事株式会社 沖縄支店長

「キャリア・コーチング」(3 時間)

講師：福澤俊幸 日本プロコーチ認定評議会マスターコーチ

「採用を勝ち取るキャリア形成法」(3 時間)

講師：加賀博 株式会社ジーアップキャリアセンター センター長

「自分らしいキャリアを切り開く」(3 時間)

講師：高橋俊介 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

「県外就職と県外企業」

講師：大津章敬 株式会社名南経営 人事・労務部門マネージャー

専門学校教職員が対応しているのは、20歳前後の感受性の強い若者であり、就職に関しては常に不安を抱いている学生である。その学生に対する効果的な就職アドバイスは、今までのような教職員誘導型ではなく、学生の内的、外的状況を理解した上で、学生中心の就職アドバイスを実践していくのが今後重要なこととなっていきます。そのためにも、現場の教職員や就職指導担当者はキャリア・マインドを持ったキャリア・サポートのスキルを身につけることが必要になってきている。特に、常に学生と接している教務職員の存在は大きく、日頃から学生に効果的なキャリア・サポートができる体制を築くためにも、より、教務側がキャリア・サポートの重要性を認識し、そして継続的にキャリア・サポートのスキルを向上させるシステムを確立させていく必要性が大きくなっていく中で、今回のセミナーを通して、学生により近い教務の先生方が参加されたことは、大きな意義があったと思います。